

カナダの森林と樹木

- 広葉樹(1) -

北海道大学農学部 深 沢 和 三

カナダの商業材蓄積の20% (約40億m³) 強を占める広葉樹は、そのほぼ70%がオンタリオとケベックの南部のアメリカとの国境に近い部分にあるという。

今回は、それらの中から樹液が食用になっているカエデ類、いわゆるシンデレラ樹種といわれるアスペンなどを含むポプラ類、樹種に富むカンバ類、北限の地に育つアラ類とブナについて述べていただいた。

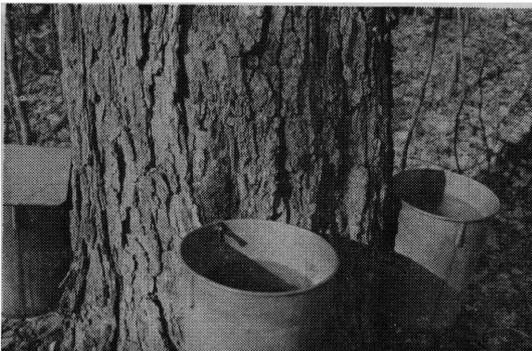
樹液も利用されているカエデ類

カナダには六裂以上のいわゆる掌状の葉をもつカエデは西部の沿岸地帯南部のツルカエデ以外にはない。有名なシュガーメープル(サトウカエデ)は東部の落葉広葉樹帯、五大湖ローレンス及びアカディアン地帯に生育する。紅葉はそう美しくない。しかしシロップ採取のため小純林が農村に多く見られ、それが一斉に色づくと思事である。

私達は10月10日頃、モンリオールからケベック市へ、高速道路でなく一般道路をセントローレンス河沿いにドライブした。あいにく小雨であったが、フレンチカソリックの白い教会を中心にした小村と、全林が見事に色ついたシュガーメープルとのコントラストは、我々を十分に楽しませた。メープルの樹液は春 3月、雪がまだ林内に残

っている頃、日中の温度が約 5 にあがるが、夜間は相当冷えこむときの極く短い期間に採取される。胸高部にドリルで小さな樹では 1つ、大きな樹では数個の穴をあけ、バケツ受けのついた受け口(メタルかプラスチック)を少し上向きに打ち込む。ふたのついた 7~ 8 lのバケツに滴を受け、2日に 1度回収し、直ちにこれを30~ 40倍に煮つめる。この温度が非常に大事であり、シロップの場合、常に沸騰点より 4 高く保つのが良いとされ、このため大気圧までチェックするのだそうである。アメ色の透明度などが品等の規準となる。

街の土産物店で小さな陶器に入れたメープルシロップが売られているが、かなり高価である。食料品店ではびん又はかんづめで安価で売られているが、人工製品もあるので注意しなければならない。煮つめる温度を変えると、112 でメープルバター、113.8 で雪のなかで固めて食べるタフイ、114.5 でソフトシュガー、117.7 でハードシュガー、123.9 でグラニュー糖がそれぞれ生産される。メープルの香りは独特なもので、一度味わって好きになると病みつきになってしまう。アイスクリームにもメープルというのがあり、茶色でくるみの小片が混入してあるが、旅行中我々の常用の一つとなった。カエデからのリキユール酒も買ってみた。甘すぎるが食後酒として捨て難い。春 3月ケベック州の村々のメープルシロップの工場が店開きをする。カエデ林を散策し



サトウカエデ樹液の採取
(モンリオール郊外)

シロップの出来ていくのを見て、雪の中でタフイを味わう。付属のレストランは団体客も多く、なかなかのにぎわいである。カナダ東部の春の風物詩として人々には欠かせない行事として定着しているように思われた。最近、プラスチックチューブを直接幹の穴にさし込み、真空ポンプで樹液を吸引する方法もなされているようだが、こうなると樹木が衰れになる。数値でみてもぴんと来ないが、年間322万ガロン（約12,200 K l）が北米全域で生産され、その76%がカナダ、またその73%がケベックの生産と言う（1973年）。

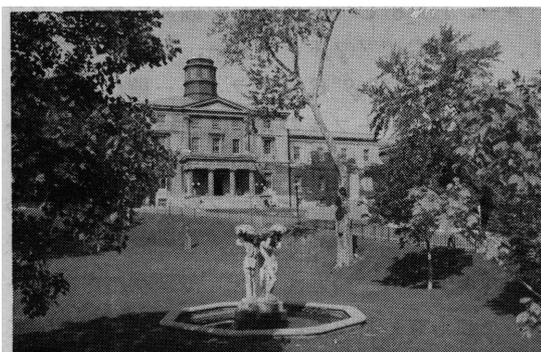
カエデ類はカナダに10種あり、そのうち4種は低木である。**ビッグリーフメープル**（マクロフィルムカエデ）は名前のとおり大きな葉を持ち、沿岸地帯のみに生育する。BC州では広葉樹が少ないため、家具または住宅内装材として貴重な資源となっている。**シルバーメープル**（サカリヌムカエデ）は葉の切込みの深いこと、**レッドメープル**（ルブラムカエデ）は小枝や芽及び花の赤いことから容易に区別される。この2つはシュガーマープルとほぼ同じ分布を持つ。**ブラックメープル**（ニグルムカエデ）は落葉広葉樹帯にあるが、シュガーマープルと同様にシロップ採集に適している。**マニトバメープル**（ネグンドカエデ）はアメリカではボックスエルダーと呼ばれ、またその葉がカエデらしくなくアッシュ（トネリコ）に似ているところからアッシュリーブドメープルとも言う。マニトバからアメリカ全土に分布し平原の肥

沃な土地を好む。あまりきれいな樹でないが、街路樹に多い。

モントリオールのマツギル大学のすぐ横のアパート街は俗にマツギルゲットウ（ユダヤ人街）と呼ばれ、いろいろな人種が住んでいて私もそこに1年いた。ヨーロッパスタイルの古い3階建のアパートが多く、このマニトバメープルがせん定もされず葉を茂らせて、2階に通ずる鉄の階段におおいかぶさっていた。夏時間でおそくまで暗くならない夕方、学生の男女が階段に腰かけていつまでも話し込んでいるのが印象的であった。ところでメープルは利用のうえでも貴重な材である。アンティークの家具ではナラと並んで王者であった。材の物理的性質から、ハードメープルとソフトメープルにわかれる。前者はシュガー及びブラックメープルであり、後者はレッド、シルバー及びビッグリーフメープルである。前者の方が重く硬く、また縮れもく、鳥眼もくを持ち、後者より価値が高い。

再評価されているポプラ類

カナダ国立林産試験場（東部 - オタワ、西部 - バンクーバー）は1979年4月に法人化し、フォリンテックカナダという名称になった。木材会社と政府から運営委員が選ばれ経営されている。近年5つの重大目標を掲げている。1. 資源の評価 2. 資源の節約 3. 利用法の改善 4. 使用年限の延長 5. 技術の確立と普及である。第1の資源の評価



マツギル大学構内
（モントリオール）



ウェハーボードと接着剤の展示
（フォリンテック東部試験場 - オタワ）

に、いわゆるシンデレラ樹種としてハンノキ、アスペンの見直しが含まれ、大きなプロジェクトとなっている。**トレンプリングアスペン**（アメリカヤマナラシ）はカナダ全土のいたるところで見られ蓄積も多い（全ポプラの81%）。カンバと同じく陽樹のため、山火跡地に入り、純林となるがやがてはスプリースの林などに変わっていく。平滑な黄緑色の樹幹は通直で枝下が高い。材の利用歩留まりは75%に達すると言う。パルプ材だけでなくパ-ティクルボード、単板積層材に利用される。この材のウエハーボードの開発はフオリンテクの重要な課題の一つである。資源大国のカナダがボードやリグニン接着剤を開発し、この技術で南方から稲や麦のもみがらを運んでボードを作っていたのには驚いた。開発途上国への技術援助の問題もあるのかもしれない。インディアンはアスペンを“女の舌”とか“うるさい葉”とか呼んでいる。日本のヤマナラシと同義である。カナディアンロッキーでは数少ない広葉樹として、特に熊や鹿などの動物の生活に欠くことのできないものであると言う。

ところでカナダには6種のポプラ類がある。**バルサムポプラ**（タカマハカド）はトレンプリングアスペンと同じくカナダ全土に広く分布する（全ポプラの13%の蓄積）。**ラージツースアスペン**（グランディデンタータヤマナラシ）、**イースタンコットンウッド**（アメリカクロポプラ）は落葉広葉樹帯、五大湖ローレンス地帯にありアメリカ東部に広がる。**ブラックコットンウッド**（トリコカルパド）はアルバータ、BC州からアメリカ西部にかけて生育する。BC州の広葉樹の蓄積は2億m³（針葉樹78億m³の3%）であるが、その大部分はブラックコットンウッドである。広葉樹の製材品としてBC州では大事なものであり、一部日本にも輸出されている。

樹種に富むカンバ類

カナダには10種のカンバがあるが、重要なのは**ホワイトバーチ**（パピリフェラカンバ）と**イエローバーチ**（キハダカンバ）の2種である。前者は

果実が枝から垂れ下っており、後者は枝から直立している。北海道のシラカンバとダケカンバにそれぞれ相当している。ホワイトバーチはカナダ全土にわたって分布し雑種も多い。インディアンはこの樹皮でカヌーを作ったので、カヌーバーチとも言う。イエローバーチは、落葉広葉樹帯、五大湖ローレンス地帯からアメリカ東部にかけて生育し、樹も大きく加工性のよいことから材の用途は広い。樹皮は黄色っぽく容易に剥ぐことはできない。**チェリーバーチ**（レントカンバ）はスイートバーチまたはブラックバーチとも呼ばれる。樹皮が茶褐色から黒で、小枝を折るとよい香りがする。ウインターグリーンという精油のためである。そのほか**アラスカバーチ**が北方地帯西部、**ウォーターバーチ**がカナダ西部、**グレイバーチ**がアカディアン地帯に生育しているが、大木にならない。ヨーロッパから**ウイーピングバーチ**（ペンデュラカンバ）が公園樹として多く入っていて美しい景観を見せている。

北限の樹木

ナラ類：北米のナラはよく知られているようにホワイトオーク系とレッドオーク系にわかれる。前者は葉の切込みがまるく、後者はとがっている。またどんぐりが1年で熟し甘いのが前者であり、熟するのに2年かかり苦いのが後者である。ほとんどのナラ類はアメリカ東部が故郷であり、その北限がカナダの落葉広葉樹帯、五大湖ローレンス及びアカディアン地帯となる。そのためカナダでは蓄積が少なく供給量は限られる。**ホワイトオーク**（アルバナラ）が最も価値が高いが、オンタリオの落葉広葉樹帯に限られる。**パールオーク**（マクロカルパナラ）はこれよりやや広い分布を持ち、材としては区別されない。またこの樹は大気汚染に強く街路樹に用いられる。**レッドオーク**（ルブラナラ）はホワイトオークよりもはるかに広い分布をもちアカディアン地帯にまで広がっている。しかも純林を作っているところもあり、モントリオール近辺では馴染みのあるナラであった。**ピンオーク**（パルストリスナラ）、**スカーレ**

ットオーク（コツキネアナラ）は、アメリカだけのナラであるが、葉の切り込みが非常に深く、きれいなため公園樹として入って居り、人々を楽しませている。

ブナ：ピーチ（アメリカブナ）も五大湖ローレンス地帯が北限とされる。しかしモントリオール近辺ではあまり見られず、トロントの方へ車を走らせると途中から、またアメリカとの国境をわたってシラキューズの方へ向うと、急にブナの平滑

で青灰色の樹皮が多く目に入って来る。北海道の黒松内が日本のブナの北限であるから、ケベック州南部は北海道とほぼ似たような環境であることを強く知らされた。ところでブナでないのに**ブルーピーチ**（カロライナシデ）と呼ばれているのがある。ホーンビームとも呼ばれるが、カルピヌス属（クマシデ属）であり、アメリカブナとほぼ似た分布をもつ。（以下次号につづく）